



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

九州支部の活動

2022 年度 九州支部の活動

世の中のすべての活動が新型コロナウイルスに振り回されるようになって久しいですが、皆さんの研究・教育活動は大丈夫でしょうか。各種業務に加えて、オンライン対応が追加されて、特に、実験系の研究室は本当に苦勞されていると拝察いたします。いろいろな意味で研究に関わる作業量が限られる中、それなりの成果を出さなければならないので、教員・研究者としての資質がより問われるようになった、と言うべきでしょうか？我々が進んでいるこの道が少しでも良い未来につながっていることを祈るばかりです。

さて、九州支部の主要な活動の1つである「九州コロイドコロキウム」ですが、令和4年度は対面での開催を前提として、徳島大学生物資源産業学部の松木均先生に世話人をお願いしておりました。「九州」コロイドコロキウムは、長年にわたり中国四国エリアの先生方にもご参加いただいております。広島や愛媛での開催実績もあります。実態としては「九州中国四国（西日本）のあたり」のコロキウムであることをご理解下さいませ。今回は特にお願いを申し上げての徳島開催（実は2回目）であり、松木先生には九州からの参加者を受け入れる前提で対面開催

のための最大限の準備していただいたにもかかわらず、第7波の立ち上がりを機会にオンライン開催とするという決断になりました。結果的に現地でお会いできなかったことは大変残念ではありますが松木先生はじめ関係各位のご尽力にこの場を借りて御礼申し上げます。

今年の九州コロイドコロキウムでは、6件の口頭講演をいただきました。講演順にご紹介すると、熊本大学 渡邊智先生に「相図に基づいた π 共役分子の溶液相結晶成長法」、大分大学 近藤篤先生に「Switching 機能を有する多孔性材料の開発」、徳島大学 加藤雅裕先生に「ゼオライトの吸着特性評価と中間層微粒子としての応用」、花王株式会社 坂井隆也先生「ユニラメラベシクルの自発的な支持二分子膜形成のダイナミクス」、物質・材料研究機構 川上亘作先生「多孔性リン脂質粒子の設計と応用展開」、富山大学 中野実先生に「リン脂質二重層の対称性・非対称性を人工的に制御する」というご講演でした。大学の研究者だけではなく、国立研究所や企業研究者にもご講演をいただけたことは、コロイド科学の広がりを示す良い機会になったと考えます。さらに、当日は11件の学生ポスター発表を行いました。オンラインであっても活発な質疑応答ができたのは、教育面でも大きな成果でした。学生さん側もだ



2017年 九州コロイドコロキウム(鹿児島) ポスターセッション風景

いぶ慣れてきた感があり、ネットワークを通して討論するスキルも一般化してきたように思います。わずかながらコロナの恩恵でしょうか、皮肉なことです。

本来、支部活動は、距離的な近さを活かして学生も交えて直接会って討論し、幅広くサイエンスについての理解を深めることに意義があると考えます。対面の活動ができない状態が続くことは支部活動の存亡にかかわると感じています。コロナ禍に伴う行動の制限も緩和の方向に向かっているとは思いますが、支部としての with コロナ・オンライン活動をどのように構築していくか、現時点では筆者には名案はありません。今後、支部メンバー全員で考えていくべき課題であろうと思います。

〔2022 年度コロイドおよび界面化学部会九州支部・支部長 新留康郎（鹿児島大学）〕

© 2022 The Chemical Society of Japan